



宮崎委員長の団結がんばろう

**1. 各級機関は、中央委員会で決定した方針を全組合員に徹底すること。**

**2. 2026年春闘要求を2月16日にJR各社に提出すること。**

なお、回答指定日は3月18日を基本とし、第一次

**闘争指示第20号**

(抜粋)

この意思統一のもと、労本部は1月28日に闘争指示第20号「当面する闘いの展開について」を発した。

回答ゾーン（3月16日～19日）および第二次回答ゾーン（3月23日～31日）とす

る。さらにグループ会社においては3月月内決着をめざす。

各級機関は「国労統一重

点要求」を中心とした要求に關する討議を深め、職場

要求の実現にむけて全職場でオンラインによるリモート集会の開催やSNSなどを活用した宣伝行動など創意工夫した取り組みを展開するとともに、各エリア本部は団体交渉を通じて要求

国労は、1月27日に第196回拡大中央委員会を開催し、2026年春闘勝利、JR各社における労働条件の改善、安全・安定輸送の確立とサービスの向上、JR北海道・四国・貨物の持続可能な支援策の確立やJR九州の安定経営に向けた助成策の継続、並行在来線の維持・活性化と地域公共交通の確保をはじめとした総合交通政策の実現など、当面する闘争方針を満場一致で決定した。

とりわけ2026年春闘の最大の課題は、際限のない物価上昇と実質賃金の低下、暮らし続けるための大額賃上げ獲得と働き方の改善が喫緊の課題である。

今次拡大中央委員会では、2026年春闘の大義なき解散・総選挙に踏み切った高市政権が進めようとしている憲法改悪・軍拡大増税・原発推進路線に反対して平和憲法と人権・民主主義擁護、脱原発など山積する諸課題と結合し、当面する衆議院議員総選挙闘争に勝利して、国労の最大かつ喫緊の課題である組織の強化・拡大に全機関一丸となつて取り組む決意を固めあつた。

この意思統一のもと、労本部は2026年春闘の闘いを通して、物価高に苦しむ国民生活不在の大義なき解散・総選挙に踏み切った高市政権が進めようとしている憲法改悪・軍拡大増税・原発推進路線に反対して平和憲法と人権・民主主義擁護、脱原発など山積する諸課題と結合し、当面する衆議院議員総選挙闘争に勝利して、国労の最大かつ

暮らし続けるための大額賃上げ獲得と働き方の改善が喫緊の課題である。

今次拡大中央委員会では、2026年春闘の大義なき解散・総選挙に踏み切った高市政権が進めようとしている憲法改悪・軍拡大増税・原発推進路線に反対して平和憲法と人権・民主主義擁護、脱原発など山積する諸課題と結合し、当面する衆議院議員総選挙闘争に勝利して、国労の最大かつ

**第196回  
拡大中央委員会  
全組合員参加の26春闘を構築しよう**

港区新橋5-15-5  
国鉄労働組合中央本部  
☎ 03-5403-1640  
発行人 宮崎浩則  
編集責任者 瀧口良二  
(組合員の購読料は組合費の中に含む)

国労本部HP  
QRコード

**(1) 要求提出日**

2月16日(月)

定期昇給の完全実施を求

め、基本給(平均)に7.0%相当額、21000円を基本とするベースアップを統一要求とし、その実現をめざすこととする。

**(2) 青年・女性中央総行動**

3月2日(月)

**3月3日(火)****3月2日(月)****3月3日(火)****3月2**



## 第196回拡大中央委員会 中央執行委員長挨拶 (抜粋)

**闘いの歴史を全組合員で確認し、次のステップに歩を進めていく年へ**

**「動く」ことを目的意識的に追及していく**

中央執行委員長の宮崎です。中央執行委員会を代表し一言ご挨拶申し上げます。

前途多難を予想させる国内外の衝撃的な動きですが、私たち国鉄労働組合にとって、結成80年を迎える節目の年であり、昨日にはセブションを開催してきたところですが、積み上げてきた闘いの歴史を全組合員で確認しあい、次のステップを進めていく年です。

今拡大中央委員会の第一の課題は、組織強化・拡大の取り組みです。

本部は、昨年9月に組織拡大対策会議を立ち上げ、これまでの組織拡大方針を

これまでの組織拡大方針を

ついてはエリア本部が主体となります。ですが、交渉を押し上げていくために職場からの闘いを作り、組合員の声をどう反映させていくことが必要です。

そのために、昨年の拡大中央委員会、そして全国大会でも、全国の組合員がつながることの必要性を再度、お願いしてきましたが、職場集会などを通して組合員一人一人の実態等について



答弁する岩元書記長

**職場運動を意識し、仲間づくりを通して国労運動の強化を**



## 第196回拡大中央委員会 書記長集約（要旨）

二九九

また関連・グループ会社との交渉も重要であり、賃金・労働条件についてJRW各社との交渉とも連携した取り組みが必要であり、委託費、受託費について早急な改善を求める必要があります。

26春闘の闘いについては、組合員とつながることを25春闘の総括も踏まえて再度、強化していくため、本部として何が必要であります。何ができるのか、そしてエリア・地方本部なども同様に、連携して創意工夫した運動、取り組みの強化を要請し、その行動を共有していただきたいと思います。

本部として、3・3中央総行動を開催しますが、中央総決起集会には会場・リモート・ビデオメッセージなどを通じて全てのエリア・地方の結集をお願いします。午前中には駅頭宣伝行動を予定していますが、エリア・地方においても、同様に連動した宣伝行動の実施を要請したいと思います。

春闘における戦術については、中央戦術委員会で議論し、判断をしていきますが、エリア・地方などで開催する職場集会などでの組合員の声を持ち寄り議論していきたいと思います。

**労働組合の形骸化を許さず  
職場に労働運動を**

根付かせよう

2つ目には、最重要課題である、組織強化・拡大の取り組みについてです。

第94回定期全国大会以降、拡大を勝ち取ることが出来ました。あらためて感謝したいと思います。

現在、JR各社・グループ会社は若年の離職者が増えており、新規採用でも苦境に立っています。原因は賃金・労働条件や将来への不安など様々あります。労働集約型産業である鉄道は長期安定雇用が重要ですが、そこが崩れていっていいのではないか。どうしていいのか。

そうした現状の中で、労働組合の役割は重要です。労働組合だけでは、会社と交渉し改善ができるのは労働組合だけです。現在、厚生労働省において労基法関連法制の見直し議論が始まっていますが、この動きを注視するとともに、労働組合が形骸化しないように、労働界全体で取り組む必要があり、左説組合との連携も模索する必要があります。

3つ目に労働条件改善安全・安定輸送、公共交通維持についてです。

**労働組合の役割**

**安全に対するチエック機能は**

安全が脅かされる事象が多く発しています。その背景として何が原因なのか労働組合として指摘する必要があり、安全に対するチエック機能は労働組合の役割です。

現場では要員不足が顕著であり、さらにマルチタスクの拡がりなどが指摘されています。事故を個人への責任追及にさせず、事故の背景に行き過ぎた合理化があるのではないかと考えます。開争方針（案）にもあるように、安全・安定輸送の為にも合理化反対の取り組みを進めが必要があります。

公共交通・地方ローカル線問題については、通年の取り組みとして取り組んでいますが、今年度はエリアー地方での統一行動の取り組みを要請しており、それぞれ創意工夫した取り組みの報告がありました。ローカル線の維持・存続、自動運転やワンマン運転における安全問題、駅の無人化、ひとりの窓口閉鎖など、地元都市部間わず問題があり実態を掴む取り組みも必要

公共交通について一度廃止されると復活することは困難であり、採算性議論ではなく公共インフラである立派な本部としては国や政黨を要請等を今後も実施してきます。

権が国際法違反の武力行使によつてベネズエラを軍事攻撃しました。今求められていることは、武力での解決ではなく対話における外交です。

様々な護憲・平和の取り組みが中央・地方において開催されていると思いますので、次世代の組合員への参加の呼びかけなど積極的な取り組みをお願いします。

最後に、厳しい状況であります。國労運動の柱である、職場運動を意識し、仲間づくりを通して國労運動を強化していきましょう。第196回拡大中央委員会において意思統一した、2026春闘勝利、組織強化・拡大に向け全組合員でつながり闘いを進めていきましょう。安心して働く職場には労働組合が必要であり、國労運動を拡げていきましょう。

